

(様式 1-3)

鏡石町定住緊急支援事業計画に基づく事業等個票

平成 25 年 7 月時点

※本様式は 1-2 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	1	事業名	ふれあいの森公園遊具整備事業	事業番号	A-1-1
交付団体		鏡石町	事業実施主体		鏡石町
総交付対象事業費		124,589 (千円)	全体事業費		124,589 (千円)
事業概要					
<p>鏡石町ふれあいの森公園は、バーベキュー施設、宿泊施設、子どもの運動機会を与える遊具を兼ね揃えた複合施設であり、子どもの運動の場を提供することに併せ、親子が揃って利用できることから、子育て世帯が安心して利用できる施設として利用されている。</p> <p>当該公園の、既存のアスレチック遊具と人工芝滑り台について、アスレチック遊具については耐久性の高い資材を利用した物に、人工滑り台については既存の人工芝を更新することにより、イメージの向上と今後の利便性を図り、地域の子どもが安全で安心できる運動機会の場として整備し、なおかつ子育て世帯が安心して利用できる環境を整える。</p> <p>また、整備した施設を町の広報媒体を活用して利活用を促進するとともに、各地区に組織されている子ども会育成会などに利活用機会の促進を図り、地域の復興の推進も併せて図っていく。</p> <p>都市計画マスタープラン（H25年度改定予定）において、緑のレクリエーション施設と位置づけし、町民の憩いの場としての機能保全と充実を図り、アクセスの向上を進める計画となっている。</p>					
【役割と機能】					
「子どもたちの遊び場、運動機会の提供」「子育て世帯が安心して定住できる環境整備」「地域子育てネットワーク機能（子育てを通じた人と人との交流と絆づくり）」					
【当面の事業概要】					
・平成 25 年度：1. 鏡石町ふれあいの森人工芝滑り台人工芝更新工事 62,939 千円 2. 鏡石町ふれあいの森アスレチック遊具設置工事 61,650 千円					
【工事概要】					
1. 人工芝 A=1,051.55㎡ 2. アスレチック遊具 18 基、他付属施設 →アスレチック遊具 12 基+コンビネーション遊具 1 基、他付属施設					
※当該事業を復興ビジョン、復興計画、復興プラン等に位置付けている場合は、該当箇所及び概要も記載してください					
人口の流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係					
<p>震災前の人口 12,815 人（平成 22 年国勢調査）から 228 人が減少し、率にして 1.78%が減少している。特に、0～14 歳は、138 人、率にして 6.9%の減、さらに、子育て世代である 25～34 歳では、176 人、率にして 11.2%の減となっており、原発事故による放射能の不安を抱え、町を離れている。また、全国避難者情報システム（平成 24 年 10 月現在）では、104 名が北海道をはじめ全国に自主避難をしている。</p> <p>子育て世代及び子どもの流出は、町の元気を取り戻すために大きな障害となることから、放射能に不安を感じて避難している方々が安心して子育てが出来る環境の整備が求まられている。</p> <p>さらに、原子力事故後に子どもに生じている悪影響について、その実態は平成 24 年度の定期健康診断の結果によると、震災前の平成 22 年度に比べて、特に小学 4 年生及び 5 年生において、肥満の割合が約 10%上昇し、平均で 23.5%が肥満傾向となっており、全国平均 8.1%を大きく上回っている。また、平成 24 年に実施した体力・運動能力調査結果においても、震災前の平成 22 年と比べ、上体起こし・長座体前屈・50m</p>					

走・反復横跳びが低下しているなど、震災前に比較して子どもの運動機会の確保が十分に図られていない現状であり、その原因としては、放射能への不安から外遊びが減少したことが原因と考えられる。

ふれあいの森公園は、町中心部から車で約10分の場所に位置し、アクセス道路も整備され、公園内には、駐車場が完備されており、また、キャンプ場、炊飯施設を併設していることから、親子が揃って利用されるなど、町民の憩いの場として休日には多くの親子連れが町内全域から訪れており、当施設において本事業を実施することで、除染ではなく人工芝滑り台とアスレチック遊具の更新により、安心して子ども達が遊ぶことができる環境を整え人口の流出に歯止めを掛けるとともに、町に元気な子どもたちの声が響く町づくりを目指す。ひいては、運動を楽しむ子どもの存在が、周りの子ども達へもその楽しみが波及して、全体的な体力の増加への底上げが図られることが期待される。

当該施設における運動の効果を一層向上させるため、町内各幼稚園、保育所、子ども会育成会等の保護者・教諭などをはじめ子ども達を対象とした、遊具の正しい利用方法について楽しみながら学べるようインストラクターによる指導会など開催し、遊びながら体力づくりができるような事業を展開していく。また、運動効果をより高めるような遊具の使い方についてのパンフレットを作成する。

※効果促進事業である場合には以下の欄を記載。

関連する基幹事業	
事業番号	
事業名	
交付団体	
基幹事業との関連性	

(様式 1-3)

鏡石町定住緊急支援事業計画に基づく事業等個票

平成 25 年 7 月時点

※本様式は 1-2 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	2	事業名	鳥見山公園運動施設等整備事業	事業番号	C-1-1
交付団体		鏡石町	事業実施主体		鏡石町
総交付対象事業費		257,786 (千円)	全体事業費		257,786 (千円)
事業概要					
<p>平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災による地震被害に加え、福島第一原子力発電所の事故による放射能被害は、福島県内を中心に広範囲に及び、屋外活動が制限されるなど 2 年以上が経過する今も、避難を余儀なくされている住民もあり、震災と原発事故被害の両面からケアしていく必要があることが各方面から提案されている。</p> <p>このことから、鳥見山公園内の多目的広場においては、町内外の子ども達の心身にわたる健康づくりのため、主にサッカー競技に活用されているが、天然芝の維持管理のため冬期間の芝の養生期間も含め、利用制限をしながら貸し出している。</p> <p>このような現状から、5 月から 11 月まで月平均約 1,000 人の利用がある多目的広場を 1 年を通して常時利用できる施設とするため、人工芝に張替えることとで、利用期間の拡大を図り、多くの子どもが常時利用可能な施設とすることで、スポーツ少年団をはじめ、多くの子どものためのサッカー競技の大会、練習会場として活用ができ、スポーツによる心身の健康づくりに役立てるための施設整備を実施する。また、被災した町立第一小学校校舎の改築により、校庭の一部のみの使用に制限されている子ども達の運動機会も併せて確保する。</p> <p>・鏡石町営多目的広場改修工事（人工芝張替工事、フェンス設置工事、設計業務委託） 工事等経費 257,786,000 円</p>					
※当該事業を復興ビジョン、復興計画、復興プラン等に位置付けている場合は、該当箇所及び概要も記載してください					
人口の流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係					
<p>震災前の人口 12,815 人（平成 22 年国勢調査）から 228 人が減少し、率にして 1.78%が減少している。特に、0～14 歳は、138 人、率にして 6.9%の減、さらに、子育て世代である 25～34 歳では、176 人、率にして 11.2%の減となっており、原発事故による放射能の不安を抱え、町を離れている。また、全国避難者情報システム（平成 24 年 10 月現在）では、104 名が北海道をはじめ全国に自主避難をしている。</p> <p>さらに、原子力事故後に子どもに生じている悪影響について、その実態は平成 24 年度の定期健康診断の結果によると、震災前の平成 22 年度に比べて、特に小学 4 年生及び 5 年生において、肥満の割合が約 10%上昇し、平均で 23.5%が肥満傾向となっており、全国平均 8.1%を大きく上回っている。また、平成 24 年に実施した体力・運動能力調査結果においても、震災前の平成 22 年と比べ、上体起こし・長座体前屈・50m 走・反復横跳びが低下しているなど、震災前に比較して子どもの運動機会の確保が十分に図られていない現状であり、その原因としては、放射能への不安から外遊びが減少したことが原因と考えられる。子どもたちを安心して運動させることができない環境となっていること等から、子育て世代及び子どもの流出が進んでおり（314 人の減少）、子育て世代及び子どもの流出は町の元気を取り戻すために大きな障害となることから、放射能に不安を感じて避難している方々が安心して子育てが出来る環境や子どもたちが十分に運動し、体力と運動能力を養う機会を確保することが求められている。</p> <p>子どもたちの運動機会の確保が十分に図られない要因として、保護者の屋外活動に対する不安感があげ</p>					

られることから、子どもたちの運動機会の確保を図るためにはこの不安感を払拭する必要がある。

子どもたちの運動機会の確保の場として利用できる町内の公園は、その多くは依然線量が高く（ $0.39 \mu\text{Sv/h}$ ）、仮置き場の設置が遅延しているため除染を速やかに実施することが困難であることから、保護者が安心して子どもたちを遊ばせることができる環境を早急に創出するためには、線量が比較的 low、広域の利用が見込まれる公園において、新たに施設整備等を行うことにより、子どもの運動機会の確保を図る必要がある。

町内には線量が比較的 low の公園が 3 箇所あるが、広域の利用が見込まれる公園としては、鳥見山公園が唯一の公園である。鳥見山公園は、JR 鏡石駅に近く、町道や駐車場が整備され、広域の利用が見込まれるとともに、線量が比較的 low（ $0.17 \mu\text{Sv/h}$ ）ことから、本公園において本事業を実施することで、一年を通した施設の利用が可能となり、安心して子ども達が遊ぶことができる環境の利用機会を増加させることができる（利用制限期間 5 ヶ月間 \times 1,000 人 = 5,000 人増）。これにより人口の流出に歯止めを掛けるとともに、町に元気な子どもたちの声が響く町づくりを目指す。

本事業は、線量が比較的 low、広域の利用が見込まれる既存の公園内のサッカー場の天然芝を人工芝化するものであり、これにより現在設けている利用制限期間においても運動の場として利用することが可能となるため、子どもの運動機会の確保という本事業の目的に照らして適切かつ効率的な事業である。また、現在、5 月から 11 月まで月平均約 1,000 人の利用がある広場を通年・常時の利用ができる施設とする整備を行うことで、スポーツ少年団をはじめとする多くの子どもたちのためのサッカー競技の大会、練習会場として活用ができるようになり、新たに年間 5,000 人の利用者増を見込んでいるところである。

※効果促進事業である場合には以下の欄を記載。

関連する基幹事業	
事業番号	
事業名	
交付団体	
基幹事業との関連性	

(様式 1-3)

鏡石町定住緊急支援事業計画に基づく事業等個票

平成 25 年 7 月時点

※本様式は 1-2 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	3	事業名	鳥見山公園運動施設等サッカー競技用備品整備事業	事業番号	◆C-1-1-1
交付団体	鏡石町		事業実施主体	鏡石町	
総交付対象事業費	2,000 (千円)		全体事業費	2,000 (千円)	
事業概要					
<p>平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災による地震被害に加え、福島第一原子力発電所の事故による放射能被害は、福島県内を中心に広範囲に及び、屋外活動が制限されるなど 2 年以上が経過する今も、避難を余儀なくされている住民もあり、震災と原発事故被害の両面からケアしていく必要があることが各方面から提案されている。</p> <p>基幹事業の鳥見山公園運動施設等整備事業において整備した人工芝を活用したサッカーゴールポスト等の設備を設置することにより、スポーツ少年団をはじめ、多くの子どものためのサッカー競技の大会、練習会場として活用する。</p> <p>・サッカー用備品購入（サッカーゴールポスト、コーナーフラッグ購入） 備品購入経費 2,000,000 円</p> <p>※当該事業を復興ビジョン、復興計画、復興プラン等に位置付けている場合は、該当箇所及び概要も記載してください</p>					
人口の流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係					
<p>震災前の人口 12,815 人（平成 22 年国勢調査）から 228 人が減少し、率にして 1.78%が減少している。特に、0~14 歳は、138 人、率にして 6.9%の減、さらに、子育て世代である 25~34 歳では、176 人、率にして 11.2%の減となっており、原発事故による放射能の不安を抱え、町を離れている。また、全国避難者情報システム（平成 24 年 10 月現在）では、104 名が北海道をはじめ全国に自主避難をしている。</p> <p>子育て世代及び子どもの流出は、町の元気を取り戻すために大きな障害となることから、放射能に不安を感じて避難している方々が安心して子育てが出来る環境の整備が求まられている。このことから、JR 鏡石駅に近く、町道や駐車場が整備された当施設において整備された基幹事業と併せて本事業を実施することで、子ども達が遊ぶことができる環境を整え人口の流出に歯止めを掛けるとともに、町に元気な子どもたちの声が響く町づくりを目指す。ひいては、運動を楽しむ子どもの存在が、周りの子ども達へその楽しみが波及して、全体的な体力の増加への底上げが図られることが期待される。</p>					

※効果促進事業である場合には以下の欄を記載。

関連する基幹事業	
事業番号	C-1-1
事業名	鳥見山公園運動施設等整備事業
交付団体	鏡石町
基幹事業との関連性	
<p>サッカー用備品を整備することで、基幹事業で整備した人工芝の運動施設の機能強化、利用促進を図るため、効果促進事業として実施する。</p>	

(様式 1-3)

鏡石町定住緊急支援事業計画に基づく事業等個票

平成 25 年 7 月時点

※本様式は 1-2 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	4	事業名	ふれあいの森公園遊具案内板等設置事業	事業番号	◆A-1-1-1
交付団体	鏡石町	事業実施主体	鏡石町		
総交付対象事業費	1,267 (千円)	全体事業費	1,267 (千円)		
事業概要					
<p>鏡石町ふれあいの森公園は、バーベキュー施設、宿泊施設、子どもの運動機会を与える遊具を兼ね揃えた複合施設であり、子どもの運動の場を提供することに併せ、親子が揃って利用できることから、子育て世帯が安心して利用できる施設として利用されている。</p> <p>当公園に基幹事業のふれあいの森公園遊具整備事業において整備した遊具の設置個所が把握できる案内板及びアスレチック名盤を設置することで、より利用しやすい施設とする。利用しやすさと自然を思い切り体験できる施設の相乗効果により、来場者の増加が見込まれる。また、案内板は災害時等における避難誘導経路図として利用できるため、利用者の安全確保が図られる。</p>					
【役割と機能】					
「子どもたちの遊び場、運動機会の提供」「子育て世帯が安心して定住できる環境整備」「地域子育てネットワーク機能（子育てを通じた人と人との交流と絆づくり）」					
【当面の事業概要】					
・平成 25 年度：鏡石町ふれあいの森アスレチック案内板等設置工事 1,267 千円					
【工事概要】					
1. 案内板 1 基					
2. アスレチック名盤 12 基					
※当該事業を復興ビジョン、復興計画、復興プラン等に位置付けている場合は、該当箇所及び概要も記載してください					
人口の流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係					
<p>震災前の人口 12,815 人（平成 22 年国勢調査）から 228 人が減少し、率にして 1.78%が減少している。特に、0～14 歳は、138 人、率にして 6.9%の減、さらに、子育て世代である 25～34 歳では、176 人、率にして 11.2%の減となっており、原発事故による放射能の不安を抱え、町を離れている。また、全国避難者情報システム（平成 24 年 10 月現在）では、104 名が北海道をはじめ全国に自主避難をしている。</p> <p>子育て世代及び子どもの流出は、町の元気を取り戻すために大きな障害となることから、放射能に不安を感じて避難している方々が安心して子育てが出来る環境の整備が求められている。このことから、町道や駐車場が整備された当施設において本事業を実施することで、除染ではなく人工芝滑り台とアスレチック遊具の更新により、安心して子ども達が遊ぶことができる環境を整え人口の流出に歯止めを掛けるとともに、町に元気な子どもたちの声が響く町づくりを目指す。ひいては、運動を楽しむ子どもの存在が、周りの子ども達へもその楽しみが波及して、全体的な体力の増加への底上げが図られることが期待される。</p>					

※効果促進事業である場合には以下の欄を記載。

関連する基幹事業	
事業番号	A-1-1
事業名	鏡石町ふれあいの森公園遊具更新事業
交付団体	鏡石町
基幹事業との関連性	
案内板及びアスレチック名盤を設置することで、基幹事業で整備した遊具の機能強化、利用促進を図るため、効果促進事業として実施する。	